

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.14 令和4年5月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel 087-832-1151～1154
Fax 087-832-1155
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目 次

1. 2022年度（令和4年度）の大学教育基盤センターの課題について……………1
2. 就任及び退任のご挨拶……………3
3. 全学共通教育の令和4年度実施に向けた研修会（FD）報告……………7
4. 令和4年度新任教員研修会報告……………8
5. 注目の全学共通科目のご紹介……………10
6. 注目のFDのご紹介……………13
7. 数理・データサイエンス・AIリテラシープログラムについて……………19
8. 新スタッフからの一言……………21

1. 2022 年度(令和 4 年度)大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高 橋 尚 志

2022 年は国立大学法人の第 4 期中期目標期間の開始年です。本学においては、創造工学部創設に象徴される全学あげての教育改革を 4 年前に行い、ちょうど去る 3 月に完成年度を迎えアフターケア期間を終えたタイミングです。私達はこれを機に第 3 期中に手をつけられなかった部分も含めてカリキュラムの全面的な見直しを行いました。検討のための議論は 3 年にも及び、本学の全学共通教育で基本としてきていた教育目標である共通教育スタンダードにも、本学の歴史と文化を踏まえつつ現代の目でメスを入れることから始める大がかりなものでした。その中で、そもそも今に求められる教養とは何か、私達はどのような教養像を持つのか、学生にどのような力量能力を持たせたいのか徹底的に議論を重ねてきました。その結果、スタンダードの優位性と先進性に自信を深め、学生の自己選択力を育成する新たな全学共通教育の改革に踏み切った所です。2022 年度はその改革のスタートであり、全体の改革を着実に実施していくのが最も重要な課題と考えます。

本学では第 4 期中期目標計画において、とりわけ学士課程教育においては、教育の柱と内外に示す DRI 教育を着実に学内に広げ、またその能力を目に見える形で示していくことがカギになっています。そのため、全学共通教育では主題科目が D 科目として位置付けられてきていますが、その流れを一層強固にしていくことなどが DRI 教育の全学展開のために必須のものとなっています。また、アセスメントテストの着実な実施も全学の学生に責任を持つ部署として円滑に実施することが課題です。それに加え、分野横断型科目やネクストプログラムの充実も、幅の広い学びを提供し促す立場としてしっかり握って離してはなりません。履修上の工夫も加えたこの第 4 期で、高度教養教育科目などを活かし、学士課程を通して教養を学ぶ姿勢を育成していかなければならないところであると考えます。

従来大教センターが中心となり力を入れていた本学の数理・データサイエンス・AI 教育事業について、今年度より概算事業として予算措置を受け同時に同事業の四国内へ展開する責任のある四国ブロック代表校にも選ばれ 6 年間の事業期間がスタートしました。ネクストプログラムの中の DRI イノベーター養成プログラム I コースを、国の認定事業の応用基礎レベルに合致するように修正を加えた上で認定を目指すことを手始めに、大学内外での事業に注力することが求められています。

外国語教育、その中でもとりわけ初修外国語の着実な実施、提供体制を整備することは喫緊の課題であり、人員配置及びグローバル人材育成プログラムの強化発展ともあわせて検討していかなければならないと考えております。

地域理解に関しては、本学が地域に根ざした学生中心の大学を標榜し自らも地域に資する大学群に加わることを選んでおり、この課題を一過性のものにしないためごく初年次のみ位置付けしていた地域理解科目を今年度から特別主題化し、学士課程全般を通じてごく

限られた狭義の地域からより広い地域を含めて学び続けるカリキュラムに改編しました。他部局との協力共同も進めつつ、この課題に取り組むことが求められています。

また、教員の教授能力、特に DRI 教育拡充に向けてはそれぞれの能力育成は欠かせない課題です。さまざまな FD 活動は従来から展開しているところですが、特に DRI 等の教育を行う教員の能力育成は第 4 期の中期目標中期計画を実施する上では待ったなしの課題と言えます。

よって、2022 年度の大学教育基盤センターの課題を次の 7 点にまとめました。

1. 第 4 期中期目標期間に開始した新全学共通教育カリキュラムの実施
2. DRI 教育の全学展開推進とアセスメントテストの検討および円滑な実施
3. 分野横断型授業科目・ネクストプログラムの充実
4. 数理・データサイエンス・AI 教育事業の充実と四国ブロックへの展開
5. 外国語教育の実施体制整備およびグローバル人材育成プログラムの強化
6. 地域理解に資する教育の促進と充実
7. DRI 教育拡充に向けた教員の教授能力の向上

専任兼任問わずセンターに関わる全てのセンター教職員一同、上述の課題や全学共通教育の円滑な実施に邁進していく所存です。皆々さま方におかれては、どうぞよろしくご指導ご鞭撻をお願いします。

2. 就任及び退任のご挨拶

大学教育基盤センター 副センター長 林 敏 浩



令和元年 11 月に ITC 教育部長を退任して少し時間が空きましたが、今回は大学教育基盤センター副センター長として戻って参りました。現在、香川大学および大学教育基盤センターでは数理・データサイエンス・AI プログラムに注力しているところです。具体的には令和 2 年度数理・データサイエンス・AI リテラシープログラムの認定を受け、さらに令和 3 年度には、『危機管理学×数理・データサイエンス・AI』による応用基礎力教育モデルの展開と普及で「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」特定分野校に選定されました。私もこれらにコミットしてきました。今回の就任で期待される大きなポイントは、これらを踏まえ、数理・データサイエンス・AI の取り組みをさらに発展させることだと思っております。

情報メディアセンターおよび大学連携 e-Learning 教育支援センター四国にも関わっているという複合的な立場もうまく活用しながら、数理・データサイエンス・AI の取り組みだけでなく大学教育基盤センターの様々な取り組みに積極的に関わっていききたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

国際教育部長 長 井 克 己

今年度から国際教育部長を担当しております大学教育基盤センターの長井克己です。教育学部で音声学を教えながら、全学共通で既修外国語（英語）科目と、その教務全般を担当してきました。約 220 に及ぶ英語の開講科目を毎学期確実に提供するため、パズルのような時間割を作り直す作業を何度も繰り返しました。近年は何とか、TOEIC L&R テストと e-learning を軸に据えた香川大学共通英語の 4 技能重視・習熟度別クラスのカリキュラムとシラバスが軌道に乗ったようにも見えますが、Communicative English II（1 年後期科目）を手始めに、更に改善を続けていきたと考えています。一方初修外国語では、香川大学で学べるドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の受講者数がバランス良く増え、英語を学ぶだけでは見えない文化に触れる学生を増やすのが課題です。留学生が行き交い、世界の諸言語と文化が安定的に教育研究されていることは、間違いなく香川大学の魅力のひとつです。学部開設科目、ネクストプログラム、Global Café 講座などとの連携を深めながら、本学学生がより充実した語学学習が行えるよう、適切なサポートが提供できる部門を作りたいと思います。既に色々とお世話になっております修学支援課の皆様、関係の先生方、どうかよろしくお願いいたします。



2022 年度 4 月より石井知彦先生の後任として能力開発部長を拝命致しました創造工学部松本洋明です。専門は金属材料学・加工プロセス工学で主に材料（金属材料）のもの造りを主眼した研究開発を実施しております。この材料学の中でもマテリアル DX（デジタルトランスフォーメーション）を指向した研究開発が強く要望され、いわゆる“A.I.”を活用したデータ駆動型の研究開発が世界的にも盛んに行われている状況です。現況での新型コロナウイルス（Covid-19）が猛威を振るう中にあって、教育現場でも DX 化が加速化され、すべての教員において（いい意味で強制的にも）“デジタル”を使いこなす必要性（義務）が生じました。子供たちも普通にタブレットを使って「教育を受ける・情報交換する」環境が当たり前のようになり、教育・コミュニケーションの場でも「デジタル化」が急速に進んでいる状況です。

さて、能力開発部のミッションおよび業務を改めて整理致しますと、(1) ファカルティ・デベロップメント（FD）の企画・実施、(2) 学生による授業評価の企画・実施、(3) カリキュラム評価の企画・実施、また (4) その他として四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）に関わる業務がございます。その中で、(1) では特に FD の企画（全学の FD プログラムの企画）と各学部での FD の開催状況・内容の情報共有を各学部委員の先生方と密に連携し、実施致します。現在、学修者（児童、生徒、学生等）が受け身ではなく、自ら能動的に学びに向かうよう設計された教授・学習法である「アクティブラーニング」が教育現場で特に重要視され、全学および各学部での FD コンテンツでも多く実施されている状況です。今後もこれはしっかりと継続しながら、先述したような DX 化の流れといかに融合できるかも重要な課題になろうかと存じます。ぜひ皆様のお知恵を拝借しながら、時代に合った FD コンテンツを企画できるよう微力ではございますが傾注する所存です。先生方のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



この3月末で4年間務めさせていただきました国際教育部長を退任いたしました。

任期中の大きな課題として、外国語教育の面で、担当教員の交代が重なる時期が迫り、それに対応した外国語教育の体制の見通しを立てる必要がありました。香川大学には4種類の初修外国語があります。ほとんどの学生は、大学で初めて英語以外の外国語に触れることになります。例えばEUでは加盟国の教育目標を母語+2言語としており、アジアでも英語以外の外国語について中等教育から学習機会が用意されている国があります。地方都市でも外国人との交流拡大が予測される中、香川大学の学生の卒後の活動に資するよう、中期的に英語を含め複数の外国語の学習機会を保證できる体制を組みなおすことが重要でした。この問題では、サブワーキンググループのメンバーはもとより、今井田理事、高橋（尚志）センター長などの御協力を得て、何とか対応策を取りまとめることができました。

任期の後半はCovid-19の対応にも時間を割かれました。大学教育全体も大きな影響を受けたことは言うまでもありませんが、外国語教育の分野では多数の学外の非常勤講師の皆様にも一斉に遠隔授業を行っていただく必要がありましたが、外国語実施部会委員や修学支援課のご協力で、当初数か月の混乱を抜けることができました。とは言え、新規留学生受け入れ・派遣の抑止は、国際教育の環境維持にとって大きなマイナスでありました。そうした中、国際教育として、グローバルカフェとの協力関係は少しずつ進みつつあります。

2期の任期をいただきながら、十分な成果を残せたとは申せませんが、後任の長井新部長が私の不足であった点を補って活動されることと思います。大学教育基盤センターの発展を心からお祈り申し上げます。



2022年3月を持ちまして大学教育基盤センター業務から退任します。この間、2011年4月から共通教育コーディネーターとして3年間、2014年4月から調査研究部長として4年間、2015年4月から能力開発部長として7年間、2018年10月から創造教育推進部門長として1年間、合わせるとのべ15年間に渡り大教センター業務に携わらせて頂きました。大変恵まれた経験をさせていただいたことを喜んでおります。まず2011年4月当初に共通教育コーディネーター業務を拝命した際、何をしたら良いのかが分からず、とはいえ工学部から選出された委員であったために、当時の工学部長の中西先生に取り急ぎ「工学部にとってメリットとなるように働きます」と挨拶をしたところ、中西先生からは「工学部のために働いてはいけない。大学全体の利益

のために働いてほしい」というお言葉を頂戴したことが今でもとても印象深く覚えています。その言葉を受け、特に調査研究部長の期間には、第二期から第三期中期計画期間における全学共通科目のカリキュラムの改革と、そのカリキュラムを実施するためにふさわしい教育組織づくりを同時に行いました。前者としては主に、主題 C の必修化や学問への扉「自然科学基礎実験」・「書物との出会い」の新規開設や大学入門ゼミにおける PBL の導入、高度教養教育科目や広範教養教育科目の新設などを行いました。後者としては、大学教育基盤センターへの名称変更やネクストプログラムの実施体制の確立、シラバスガイドラインの作成や科目領域のあり方の検討、卒業要件単位数の見直しや、全学の柔軟な学事暦としてのクォーター制の新規導入などを行いました。この大教センター業務ののべ 15 年間にお世話になった方々はあまりにも多く、特に歴代の教育担当理事や歴代の学長特別補佐の先生方、各学部教育担当副学部長、歴代の大教センター長、大教センター主担当教員、共通教育コーディネーター、各科目領域幹事、各学部選出能力開発部委員などの先生方に加え、修学支援課、教育企画課、学生生活支援課、入試課、給与福利課、各学部教務担当職員の方々ほか、大変大勢の方々に支えられて大教センターの業務を遂行することが出来ました。心から感謝申し上げます。特に、共通教育コーディネーターの時代からともに汗を流してきた高橋尚志先生とは、常に一緒になって本学教育の諸問題の解決を行ってきた大切な同志です。役職が人を育てるという言葉も身を以て体験させて頂きました。私がこの間、大教センターの業務に携わらせていただくことにより、特に以下の 6 点についてのメリットを感じました。(1) 大学全体の情報が手に入る。(2) 大学本部執行部の動きがわかる。(3) 他大学の取り組みが分かる。(4) 文科省の方針がいち早くわかる。(5) OECD など国際的な動向がわかる。(6) 全国の大学職員と知り合いになれる。この様に大教センター業務には多くのメリットがある一方で、何一つデメリットがありません。ですので大教センター業務については、ぜひとも、各学部の多くの先生方にも経験していただきたいと願っています。共通教育は学士課程の基盤であり、今後も大学教育基盤センターがますます発展することを願ってやみません。

3. 全学共通教育の令和4年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：令和3年12月7日（火）13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス 321 教室及びオンライン開催（Zoom）

次年度全学共通教育担当者を対象とした研修会が開催されました。昨年度に引き続き今年度も、第1部、第2部ともに講義室での対面方式と遠隔配信方式を同時に行うハイブリッド方式を採用しました。第1部の参加者は111名、第2部の参加者は87名でした。

【第1部】第1部では、(1) 第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革について（寺尾徹共通教育部長）、(2) DRI教育の可視化に向けて（高橋尚志大学教育基盤センター長）、という2つの講演がありました。(1) では、第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革の背景、議論の経緯、および具体的な改革内容について報告がなされました。(2) では、第4期中期目標中期計画（学士課程）に掲げられた、学修成果の可視化について、現状のシステムを確認すると共に、今後の方針が説明されました。

【第2部】第2部では、「全学共通科目の新しい試み、科目領域の助け合いの仕組みについて」と題して、前半部分では、野村美加教授（調査研究部長）から、科目領域の助け合いの仕組みが導入される経緯について説明がありました。第3期中期目標期間における全学共通教育を検証した結果、科目領域の負担を調整・軽減する必要性、新しい学際型科目・入門科目の導入の必要性が指摘されました。そのため、科目領域グループミーティングを新たに設け、共通教育コーディネーターが中心となって、科目領域間の負担の調整・軽減を行いながら、上述の新しい学際型科目の授業担当者を選出しました。また、後半部分では、共通教育コーディネーターから、科目領域グループミーティングの結果が報告され、意見交換が行われました。

詳細は『香川大学教育研究』第19号所収の報告をご覧ください。香川大学学術情報リポジトリからPDF版をダウンロードすることができます。

（[香川大学学術情報リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp)）

（文責：西本佳代）

4. 令和4年度新任教員研修会報告

日時：令和4年4月6日（水）9:00～15:55

場所：教育学部 411 講義室（幸町北キャンパス 4 号館 1 階）

【プログラム】

午前の部 9:00～12:00

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1. 開会挨拶 | 笥 善行（香川大学学長） |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について | 今井田克己（教育担当理事） |
| 3. 研究活動と教員の活動評価について | 片岡郁雄（研究・産官学連携・
教員評価担当理事） |
| 4. コンプライアンスを考える | 真鍋光輝（総務・労務担当理事） |
| 5. 香川大学の地域連携の取り組みについて
（産学官連携の推進） | 城下悦夫（産官学連携・特命担当副学長） |
| 6. 情報セキュリティについて | 吉田秀典（危機管理・学術・特命担当副学長） |
| 7. 各部局からの事務説明 | 保健管理センター・学生支援センター |

午後の部 13:30～15:40

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明 | 松本洋明（大教センター能力開発部長） |
| 2. 全学共通教育運営体制について | 寺尾 徹（大教センター共通教育部長） |
| 3. 全学共通科目の枠組みについて | 野村美加（大教センター調査研究部長） |
| 4. 香川大学における FD の概要 | 西本佳代（大教センター） |
| 5. スキルアップ講座について | 佐藤慶太（大教センター） |
| 6. 新任教員お悩み相談 | |
| 7. 修了式 | |

令和4年度の新任教員研修会が開催されました。新任教員研修会の出席者は27名でありました。

この2年間（令和2年度、3年度）はコロナ禍の影響で、対面方式での実施ではあるもののグループワークなどを行わず、実施しました。今年度も基本的には昨年度のスケジュールを踏襲した上で、感染拡大防止策をさらに徹底し対面で実施しました。午前中には学長の挨拶の後、教育・研究・教員評価・コンプライアンス・地域連携・学生支援・保健管理・情報セキュリティ等について、それぞれ担当の理事・副学長・教員から説明がありました。

午後は大学教育基盤センターが全学共通教育に関する説明を行いました。能力開発部長（松本）の趣旨説明の後、寺尾共通教育部長と野村調査研究部長から、それぞれ全学共通教育の運営体制と、全学共通科目の枠組みについて説明がありました。休憩を挟み、西本教員より



FD 受講の意義が説明され、本学で開催される全学 FD の新しいラインナップが紹介されました。さらに佐藤教員よりスキルアップ講座についての説明がなされ、MS-Forms を用いた教員と学生の双方向型リアルタイムアンケートの実践例の紹介がありました。

最後に、佐藤教員と各学部から選出された能力開発部委員により、新任教員お悩み相談の時間が設けられました。参加者からは研究費/運営費の使用方法や授業（内容・遠隔授業・出欠確認・運営方法など多岐に渡る質問から）についてのお悩みを中心に多くの質問があり、能力開発部委員が丁寧に説明・回答を致しました。特にこのお悩み相談では、全員にスマホをもたせ、QR コードをかざしてもらい、全員に質問を入力させる方式で、例年になく多くの質問がよせられ、より有意義な相談会になったと感じております。

本学では平成 30 年度より「新任教員研修プログラム」が本格実施されています。そこで最後に石井前能力開発部長より「新任教員研修プログラム」の受講対象者にガイダンスを実施し、受講すべき意義と背景について説明を頂きました。令和 4 年度の新任教員研修ワークショップは 8 月 31 日（水）、9 月 1 日（木）の二日間、幸町キャンパスにて開催される予定であり、新任教員の皆さんにアナウンスがありました。

（文責：松本洋明）

5. 注目の全学共通科目のご紹介

■学問への扉「大学的香川ガイド」

今年度の第1クォーターから、学問への扉「大学的香川ガイド」が始まりました。一風変わった講義タイトルは、去る3月に同じタイトルで上梓した『大学的香川ガイド』（昭和堂）に由来しており、講義内容も本書の内容を骨子としています。というわけで、学問への扉「大学的香川ガイド」を紹介するには、この書物の説明から話を始めた方が良さそうです。

『大学的香川ガイド』は、気候学・地質学・海洋学・歴史学・民俗学・文学・美術史学・地理学・ツーリズム・都市政策・交通政策など、多分野にわたる各専門分野の第一線で活躍する研究者が、それぞれの視点から香川県に関わる問題について論じた書物です。また、本書は「大学的地域ガイド」として、おおよそ都道府県別となっているシリーズのひとつであり、シリーズは現在28冊出版されています。

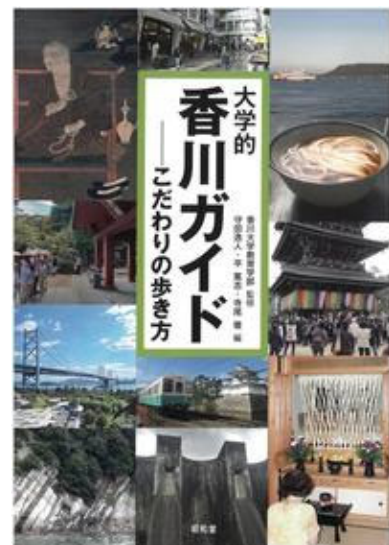
思えば昨今、地域を多方面から捉え直そうという試みが増えてきました。代表的な例で言えば、NHKが放送する「ブラタモリ」は、やはり上記のような様々な学問的成果をふまえながら地域を歩き、地域の成り立ちや特徴を発見する番組となっています。こうした動きの背景について考えてみましょう。

現在、私たちの生きる社会は、とてつもなく多様化しております。異なる価値観を持つ人々や社会が共生し、持続可能な社会を創りあげていくことは、人類規模で重要な課題となっています。こうした課題に向き合うためには、人間がどのように様々な社会を創りあげ、どのような工夫を凝らしてきたのか、様々な事象に意識的に目を向け、各所で蓄積された情報そのものや、それらを客観的に分析した結果を学び、社会のあり方や人間の生き方、それを決定づけてきた自然条件に至るまで、幅広く理解を深める必要があります。このような営みは、これからの社会のあり方、個々の生き方を考えていく上で重要なヒントになるでしょう。『大学的香川ガイド』はそうした視点から、よく知られる事象と、そうでない事象をバランス良く配置し、現在の香川県を理解するために不可欠な論考を揃えました。

開講した学問への扉「大学的香川ガイド」も同様です。各回の講義は、毎回『大学的香川ガイド』の執筆者をゲストスピーカーとして招き、各担当部分を中心に講義しています。本論の内容をなぞらせるだけでなく、触れ得なかった裏話や、本論からさらに掘り下げた議論、若干本論から外れた担当者自身の研究分野の話などを織り込んで、授業を展開しています。

受講生には、様々な角度から香川県を理解するとともに、地域を理解するための考え方を学んで欲しいと思います。そして、ひとりでも多くの学生が地域の成り立ち方に関心を持ち、やがて探求者・発信者となることで、地域や人々の暮らしに関わるさまざまな分野の学問研究がさらに深化し、未来に向かって生きていくためのヒントがこれまで以上に豊かになることを期待したいと思います。

（文責：守田逸人）



■学問への扉「自然科学へのいざない」

学部1年生を対象とし、幅広い自然科学の重要性、学ぶことの意義や楽しみを認識するだけでなく、あらゆる専門性や社会につながっていることを共に考える内容です。特徴は、3名の専門性が異なる教員が集まり、コーディネーターと共に、学生からの質問やコメントに対して、その場でのやり取りも含めて応える時間帯を重視している点です。各テーマ2回構成とし、1回目の講義内容に関する課題・質問・コメントに対して、2回目に補足や新たな問題提起と共に、挙手による質疑応答の時間を設ける構成です。今年度のテーマは以下とし、1年生の大学活動が豊かになることをねらいとしています。

（前半）食料生産、植物生理・生態学、スマート農業、農作物の流通経済【農・水田圭祐教員】（中盤）インフォマティクス、情報科学、コンピュータ、認知科学【創工・林 敏浩教員】

（後半）医学にかかわる化学、環境と生活を支える化学、エネルギーを支える化学、自然科学の光と影、社会に繋がる自然科学【医・和田健司教員】コーディネーター【農・田中直孝教員】

（文責：田中直孝）

■ライフデザイン「地域社会における SDGs 達成への取り組み」

本科目は、令和4年度に新設されました。近年、小学校から高校まででSDGs（持続可能な開発目標）が扱われ、学生は各種活動等を通してSDGsに触れてきていると思います。一方で、大学生ではあっても、自分自身が社会の一員としてこれらの目標の達成を目指していく、という認識をもつことは、必ずしも容易ではありません。本科目により、SDGsについての知識を深め、大学を含む地域社会による取り組みを知ってもらいます。国際ナショナルオフィスの立場からは、SDGsは地域の課題であると同時に、世界が取り組まなければならない国際的な課題です。今年度は国際ナショナルオフィスからは原教員、ロン教員が、また、他部局より坂井先生（教育学部）、長谷川先生（四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）、一見先生（農学部）にレクチャー部分をご担当いただきます。学生が行動する契機、学びを深める契機になることを目指しております。

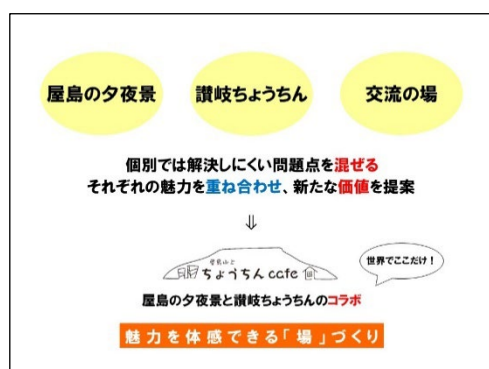


（文責：高水徹）

■ ライフデザイン「地域をデザインする思考と実践」

21 世紀になってから早くも 20 年経過しました。日本においては、地域の衰退・消滅、超高齢化社会、深刻化する環境問題など、21 世紀初頭に予言された問題は、予想を裏切らず、コロナ禍も相まって、問題解決に至っているとはとても言い難い状況にあります。私自身はもともと工学部建築分野出身ですが、大学時代から社会問題に関心があり、建物を建てる解決法だけではない「まちづくり」という融合的な分野に惹かれていきました。その後、本学経済学部にて赴任してからは、地域にある潜在的な魅力や活力を引き出す地域プロジェクトを手掛けてきました。本講義では、工学部で培ったデザイン知と人文学系で身につけた社会知を融合させた「思考」と「実践」の入り口に、皆さんをご案内したいと思います。

(文責：西成典久)



講義スライドの一例

6. 注目のFDのご紹介

- 講義名 : DRI を各自の授業で活用するために
- 実施期間 : 令和4年3月24日(木)～3月31日(木)
- 講師 : 小坂有資(大学教育基盤センター)、石塚昭彦(創造工学部)、
高橋亨輔(創造工学部)、藤澤修平(大学教育基盤センター)
- 開催方法 : オンデマンド(Moodle)
香川大学 Moodle>「2021 年度コンテンツ」
>「教職員」>「大学教育基盤センター主催 FD」>
>FD「DRI を各自の授業で活用するために」
- 参加者 : 17 名

大学教育基盤センターでは、DRI(デザイン思考(D)、リスクマネジメント(R)、インフォマティクス(I))教育の充実を図るため、次の3つの取り組みを実施しています。それらは、(1) DRI 能力を育成するための基盤的教育、(2) より高度な DRI 能力を育成するためのネクストプログラム(DRI イノベーター養成プログラム)、そして(3) DRI 能力を育成するためのFDプログラムです。本FDは、(3) DRI 能力を育成するためのFDプログラムの一環として実施されました。

本FDの目的は、「DRI、すなわちデザイン思考(D)、リスクマネジメント(R)、インフォマティクス(I)の要点と、授業の実践例を通して、DRI を各自の授業で活用する方法を学ぶこと」でした。

本FDは、上記(2) DRI イノベーター養成プログラムの修了演習にあたる「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」(2021年度実施)をもとにして作成されました。この課題研究は、D・R・Iのそれぞれの専門家が担当しています。授業ではフィールドワークも実施しており、地域社会の行政や企業等とも連携しています。なお、本授業の詳細につきましては、本学の学術情報リポジトリにある「令和3年度『DRI イノベーター養成プログラム課題研究』実施報告」をご覧ください。

本FDは、上記の通り、オンデマンド(Moodle)で実施され、構成は以下の表の通りでした。まず、授業のコーディネーターがFDの概要を説明し、次に、D・R・Iの専門家がそれぞれのポイントを説明し、最後に、「DRIを活用した地域活性化」と題して「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」(2021年度実施)の受講生が発表するという構成でした。なお、各動画の長さは、下記1～4の動画はそれぞれ約10分、下記5の動画は約30分でした。

表：FDの構成

内容	担当
1. FDの概要	小坂 有資
2. デザイン思考のポイント	石塚 昭彦
3. リスクマネジメントのポイント	高橋 亨輔
4. インフォマティクスのポイント	藤澤 修平

5. 「DRI を活用した地域活性化」	上記 4 名の教員が担当した「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」(2021 年度実施) 受講生の発表動画
---------------------	---

本 FD を受講した教員からは、DRI についてより詳しく知ることができた、DRI を活用した授業実践から DRI 教育の方法をより具体的にイメージすることができた、さらに、教員自身の授業にすでに D・R・I の要素があったことに気づいた等といった感想があり、本 FD の目的は概ね達成できたのではないでしょう。

(文責：小坂有資)

- 講義名 : データで人を繋げるまちづくり
- 日時 : 令和 4 年 3 月 14 日 (月) 14:00~15:30
- 講師 : 川島宏一氏 (筑波大学システム情報系教授)
- 開催方法 : オンライン開催 (Teams でのリアルタイム配信及び Moodle でのオンデマンド配信)
- 参加者 : 当日参加 65 名、オンデマンドでの参加 25 名

本 FD は、「データで人を繋げるまちづくり」というタイトルからもうかがえるように、インフォマティクス (I) とまちづくりに関する FD として実施されました。講師として、JICA (国際協力機構)、北九州市役所、世界銀行、佐賀県 (最高情報統括監 (CIO))、株式会社公共イノベーション (代表取締役) を経て 2015 年より筑波大学システム情報系教授 (社会工学域) の川島宏一氏をお招きしました。なお、本 FD も、上記 FD 「DRI を各自の授業で活用するために」で記載されている、(3) DRI 能力を育成するための FD プログラムの一環として実施されました。

本 FD の目的は、いま、なぜ“データで人を繋げるまちづくり”が大切なのか、“データで人を繋げるまちづくり”とはどのような活動なのか、そして、今後、“データで人を繋げるまちづくり”はどのような発展が見込まれるのか、といった問いについて考え、学ぶことでした。

データで人を繋げるまちづくりの中心事例として、本 FD 講師の川島教授が実践している Hack My Tsukuba が紹介されました。Hack My Tsukuba とは、「地域課題を市民が自分ごととして解決するつくばを目指して」、筑波大学と茨城県つくば市が実施しているワークショップです。このワークショップでは、デザイン思考と非常に関連のあるバックキャストिंगアプローチを活用しており、その実践例も紹介されました。

データで人を繋げるまちづくりの今後として、最寄り AED 急搬送、災害弱者の避難支援、道路損傷箇所の発見、認知症による徘徊者の発見、犯罪発生場所の回避、交通事故発生場所の回避といったリスクマネジメントとも関連する事例におけるデータの利活用、データを利活用するうえでの様々な「型」の紹介、そしてデータ流通の正と負の両側面とデータ共有のための「ルール」づくり等に関する説明がありました。

このように本 FD は、インフォマティクス (I) が中心となっていましたが、デザイン思考 (D) やリスクマネジメント (R) の要素もある FD でした。講演後の質疑応答では、活発な議論がなされました。

このようなデータで人を繋げるまちづくりに関する知識と実践例は、地域にイノベーションを創出する人材を育成する DRI 教育を実施していくうえで、貴重なヒントになりました。

(文責：小坂有資)

- 講義名 : 「アカデミック・スキル」をどう教えるか
- 実施期間 : 令和4年3月14日(月)～
- 講師 : 佐藤慶太・西本佳代(大学教育基盤センター)
高水徹(インターナショナルオフィス)
- 開催方法 : オンデマンド(Moodle)
香川大学 Moodle > 「2021 年度コンテンツ」
> 「教職員」> 「大学教育基盤センター主催 FD」
> 「FD スキルアップ「アカデミック・スキル」をどう教えるか(大学入門ゼミ授業担当者向けコンテンツ)」
- 参加者 : 7名(令和4年5月30日(月)現在)

例年3月に、次年度大学入門ゼミ担当者を主な対象として行っているアカデミック・スキルFD。コロナウイルス感染拡大防止のために、2020年度はリアルタイム遠隔型で実施したが、グループワークを行えなかったこと、質疑の時間をうまく活用できなかったことなどもあって、うまくいったとは言えませんでした。この経験を踏まえて、2021年度は、完全オンデマンド、Moodle上に動画、資料を置くという方法で実施しました。一つのスキルにつき、20分程度の動画コンテンツとともに、それぞれのスキルに関する資料を同じコースに一括しておくことで、利用者の利便性を高めるよう工夫しました(右画像を参照)。工夫をしたかいもあり、参加者からは「各項目について、具体的な教授法、練習法(およびなぜその教授法・練習法をした方が良いのか、効果的か)について学ぶことができた」、「今回、オンデマンドということもあり、充実した内容を理解しながらゆっくり自分のペースで受講することができた」等、好意的な感想をいただきました。アンケートを見る限り、参加者の評価は全体として高いものであったと思われます。このコンテンツは4月以降も継続して公開していますが、4月に着任された先生方も受講して下さっているようです。こういったことも、オンデマンドコンテンツの利点でしょう。一方で、「コロナ禍の再燃と言う状況下でやむをえないことでしたが、やはり対面かライブ配信で、実際に各例示ワークを体験したかったと思いました」といった意見もありましたので、次年度の実施方法については、改めて検討の必要がありそうです。

(文責 : 佐藤慶太)

3月FDスキルアップ講座「アカデミック・スキル」をどう教えるか

<3月FDスキルアップ講座「アカデミック・スキル」をどう教えるか」の受講に関して>

3月FDスキルアップ講座「アカデミック・スキル」をどう教えるか」をオンデマンドにて実施します。
以下の流れで受講してください。

1. コンテンツごとの動画を視聴する。視聴を終えたらそれぞれ「受講完了」を押してください。
2. 動画視聴後に「アンケート」へご回答ください。動画やコンテンツに関してご質問がある場合は、「アンケート」に記入してください。
後日、担当講師からの回答をお知らせします。

なお、アンケートは受講確認のため記名式により実施しますが、回答内容は他の受講者からは見えません。

3. アンケート回答後に、修学支援グループで動画視聴状況を報告し、全ての動画が受講完了となっていることをもってFD受講とします。

※新任教員研修プログラム受講の先生方は、「全ての動画視聴+アンケート回答」が確認できましたら「全学共通研修(2時間)」にカウントします。

※以下トピックに掲載の資料は、動画内のスライドと一部異なる場合があります。

※R4.3.15「全学共通研修(1.5時間)」→「全学共通研修(2時間)」へ修正

- ▶ 「大学入門ゼミハンドブック」の概要
- ▶ 情報整理の方法
- ▶ レポートの書き方
- ▶ 日本語技法
- ▶ プレゼンテーションの方法
- ▶ 動画視聴後アンケート

「動画視聴+アンケート回答」により、FDを受講したものとします。
アンケートは受講確認のため、記名で実施します。
(説明1のみ必須回答です)

大学入門ゼミハンドブック2022

大学入門ゼミハンドブック2022

大学入門ゼミの説明

説明.pptx

情報整理の方法

ダイジェスト版(学生配布用)

情報整理の方法.pptx

【新任教員へのFD収録動画の公開について】

■講義名・参加者・講師

- ・安全で確実なハイブリッド型授業の実施に関するFD（令和3年4月30日開催）・10名
講師：岡田徹太郎（経済学部教授・大学教育基盤センター地域教育部長）
- ・Zoom 百物語、授業や会議がさらにパワーアップ（令和3年9月16日開催）・8名
講師：石井知彦（創造工学部教授・大学教育基盤センター前能力開発部長）
- ・教室マイクを使って遠隔＋対面授業を行う（令和3年5月7日～6月7日（オンデマンド））・4名
講師：青木高明（教育学部准教授）

■実施期間：令和4年4月6日（水）～5月9日（月）

■開催方法：オンデマンド（Moodle）

- ＞香川大学 Moodle＞「2022年度コンテンツ」
- ＞「教職員」＞「大学教育基盤センター主催FD」
- ＞「新任教員研修プログラム2022」

本学に新たに着任した新任教員を対象として、遠隔授業を円滑に実施するためのFD動画をオンデマンドで公開しました。この動画は、昨年度、本学全教員を対象とした実施されたリアルタイムのFDを録画したもの、あるいはもともとオンデマンドで公開されていたFD動画です。昨年度のFD開催時期に、本学に在籍していた教員はFD受講の機会がありましたが、新任教員にはその機会がありませんでした。いずれのFDも、遠隔授業を実施する可能性のある教員にはぜひ視聴いただきたい内容です。そのため、今年度のはじめ、特別に期間を設定し、それらのFD動画をオンデマンドで公開しました。講座によって差はありますが、10名程度の新任教員の参加があり、いずれも高評価をいただきました。新学期は、新入生とともに、新任教員へのサポートも欠かせないことを実感した取組でした。

（文責：西本佳代）

新任教員研修プログラム2022

Home / コース / 2022年度コンテンツ / 教職員 / 大学教育基盤センター主催FD / 新任教員2022

新任教員研修プログラムに関して

大学教育基盤センターのホームページにプログラム内容やQ&Aを掲載しておりますので
そちらもご参照ください。

- ・プログラム内容
- ・Q&A

掲載のコンテンツに関して

1. 全学共通研修（必修）に関して

「自校教育コンテンツ」は全学共通研修の必修です。
プログラム期間の2年間で必ず視聴してください。
動画視聴完了後は、「受講完了」を押してください。

2. オンデマンドコンテンツに関して

令和3年度に実施したハイブリッド授業、オンデマンド授業に関するFDの収録動画を掲載しています。
令和4年4月にプログラム開始教員は、期限までに以下の手順で受講すると全学共通研修の受講にカウントします。

【「主題科目タイプ別授業事例」動画について】

■公開期間：令和3年12月21日（火）～

■公開方法：オンデマンド（Moodle）

＞香川大学 Moodle＞「2021 年度コンテンツ」

＞「教職員」＞「大学教育基盤センター主催 FD」

＞「主題科目タイプ別授業事例」

■公開中の動画：

- 1) 科目名：企業と社会の関係 B
担当教員：松岡久美（経済学部）
- 2) 科目名：社会デザインとマイノリティ問題
担当教員：小坂有資（大学教育基盤センター）
- 3) 科目名：水の活かし方、治め方
ーグローバルな視点でー
担当教員：角道弘文（創造工学部）
- 4) 科目名：農業バイオテクノロジー
担当教員：野村美加（農学部）

3. 授業事例動画

タイプⅠ～Ⅲの授業事例が動画で紹介されています。
なお、以下の授業事例は2021年度以前の主題Bタイプ別授業事例ですが、各授業事例のタイプⅠ～Ⅲは主題のタイプⅠ～Ⅲに対応します。

▶ タイプⅠ「企業と社会の関係B」（約7分）

授業科目名：「企業と社会の関係B」
担当教員：松岡久美（経済学部）
開講時期：2020年度第4クォーター
受講者数：15人
実施形態：遠隔授業
授業タイプ：タイプⅠ・課題発見・解決型（学生主導・課題発見・課題解決の何らかのワークを行う授業）
シラバスは[こちら](#)

▶ タイプⅠ「社会デザインとマイノリティ問題」（約7分）

授業科目名：「社会デザインとマイノリティ問題」
担当教員：小坂有資（大学教育基盤センター）
開講時期：2020年度第4クォーター
受講者数：52人

本授業事例動画は、主題科目の実質化にくわえて、DRI教育の特にD科目（デザイン思考能力の育成に関する科目）の全学波及のために作成された動画です。ということでしょう。大学教育基盤センターのホームページ（教職員向け情報＞DRI教育＞DRI能力を育成するための基盤的教育）には、次のように記載されています。少し長いですが、引用します。

主題科目（2021年度以前は主題B）は、21世紀を生きる学生が将来市民として直面する社会的課題の発見とその課題解決力を育成する科目です。この主題科目は共通教育スタンダードのうち主として「③21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応しており、これまでこのスタンダードにさらに沿うような授業改善や様々な工夫が試みられてきました。

主題Bの授業改善や様々な工夫が試みられている際に本学では、DRI教育を全学的に展開させるという課題が追加されました。DRI能力育成科目のD科目（デザイン思考能力の育成に関する科目）では課題発見、課題解決能力も育成されます。全学共通科目として開講されている主題科目の課題発見・解決型授業を充実させることで、D科目の全学波及が進むと考えられています。

このような考えのもと大学教育基盤センターでは、主題科目の実質化とD科目の全学波及が行われています。

主題科目は、タイプⅠ「課題発見＋解決型」（学生主導）、タイプⅡ「課題解決型」（学生主導）、タイプⅢ「課題発見型」（学生主導）、タイプⅣ「課題理解型」（教員主導）という4つの授業タイプに分かれており、本授業事例動画では特に、学生主導であるタイプⅠ～Ⅲの授業事例を紹介しています。それぞれの動画では、授業で扱うテーマ、授業全体のデザイン、そして、課題発見や課題解決の具体的な方法等について、10～15分程度で説明されています。

（文責：小坂有資）

7.数理・データサイエンス・AI リテラシープログラムについて

日本政府が 2019 年に公開した「AI 戦略 2019」¹⁾では、「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能は、デジタル社会の基礎知識（いわゆる読み・書き・そろばん）的な素養とされています。また、同戦略には、大学・高専の具体目標として「全ての大学・高専生（約 50 万人／年）が初級レベルの数理・データサイエンス・AI を習得」することが示されており、関連する人材の育成が緊急的かつ長期的な課題となっています。

このような社会的要請に応えるべく、香川大学では、2020 年度より、全学部 1 年生を対象としたリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」²⁾をスタートさせました。

本教育プログラムの修了要件は、「情報リテラシーA（1 単位）」及び「情報リテラシーB（1 単位）」の計 2 単位を取得することです。以下に各科目の概要を紹介します。

情報リテラシーA： 香川大学に入学する全学生が、早期に身に着けるべき情報リテラシーを学習するために、1 年次生対象に開講される必修科目

情報リテラシーB： 香川大学に入学する全学生が、文系理系を問わず初年次に身につけるべき数理・データサイエンスの基礎を学習するために、1 年次生対象に e-Learning で開講される必修科目

本教育プログラムを構成する 2 科目はともに全学必修科目ですから、本学は前述した「AI 戦略 2019」の具体目標を満足しています。以下に、「初級レベルの数理・データサイエンス・AI」に相当する、本教育プログラムの学修成果（身に着けることのできる能力）を示します。

1. 数理・データサイエンスの必要性を説明できる。
2. 地域を含む実社会での数理・データサイエンスの事例を例示できる。
3. どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか、利用するアプリケーションも含めて説明できる。
4. 代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる。
5. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。



最後に特筆すべき事項として、本教育プログラムの取り組みは、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」³⁾に認定されています（認定日：2021 年 8 月 4 日、有効期限：2026 年 3 月 31 日まで）。「学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するため、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程（教育プログラム）」として、本教育プログラムが香川大学学生の数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能の向上に寄与することを期待しています。

（文責：藤澤修平）

参考文献

- 1) 統合イノベーション戦略推進会議, AI 戦略 2019 ～人・産業・地域・政府全てに AI～, <https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2019.pdf>, (参照 : 2022/5/26)
- 2) 香川大学, 数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム, <https://www.kagawa-u.ac.jp/research/education/27230/>, (参照 : 2022/5/26)
- 3) 文部科学省, 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル), https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm, (参照 : 2022/5/26)

8. 新スタッフから一言

大学教育基盤センター 准教授 蝶 慎 一



この度は、大学教育基盤センターの教員として迎えていただき、大変有難く光栄に存じます。私の生まれは富山県です。高校まで実家で過ごした後、北海道にある教育学部に入學しました。そのまま大学院の修士課程まで北海道の札幌で勉学を続け、その後、高等教育や大学教育について博士課程で研究を進めようと東京でフルタイムの院生としてトレーニングを受けました。

私の専門分野は、高等教育論 (Higher education)、大学教育、学生支援 (Student Affairs and Services)、です。特に、日本と米国の大学における学生支援の歴史と比較の研究テーマは自分自身の大きな挑戦し続けたいものの一つです。2021 年度からは、占領下沖縄の大学の学生支援に関する助成研究を開始しています。

職歴に関しましては、東京で大学院生を始めた頃から、特別研究員で国立大学協会に、大学評価・学位授与機構 (現 大学改革支援・学位授与機構) 研究開発部では、専任助教として高等教育の質保証に関わる調査研究、実践の場に身を置いて参りました。その後、広島大学の高等教育研究開発センター等でプレ FD、院生指導、TA・学生スタッフの育成も経験しました。

現在、本学は、「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに据えております。微力ではございますが、早く大学教育基盤センターで研鑽できますように精一杯努力してまいる所存です。高橋センター長をはじめ、ご関係の先生がた、職員の皆様、何とぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

教育・学生支援部長 藤 沢 博 伸

令和 4 年 4 月 1 日付けで教育・学生支援部長を拝命しました藤沢博伸と申します。

昭和の時代に大学職員になって、複数の高等教育機関で長く勤務しておりますが、そのうち、教育・学生支援関係の職員としては、在職年数の半分以上の 21 年となりました。

2 年前からは、教育・学生支援部に所属し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策を講じつつ、学生の学修機会を確保するための様々な工夫や取組、また、教育に関わる解決しなければならない問題点や改善点についての検討など、諸先生方にご指導・ご協力をいただきながら、大学運営に携わって参りました。

引き続き、微力ながら、センターや大学運営に係る事務体制を充実・強化して、教職員や学生と信頼関係が築けるよう業務に取り組んで参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

修学支援課長（併任）大学院教学支援課長 角 田 圭 美

令和4年4月1日付け学内異動により、教育・学生支援部教職支援グループリーダーから修学支援課長（併任）大学院教学支援課長に就任しました角田圭美と申します。

3月までは同じ教育・学生支援部ではありましたが、教職支援グループは教員免許状更新講習を実施していましたので、どちらかという与学生さんより現職教員との関わりが多い部署でした。4月からは環境が一変して新入生を迎え慌ただしい中ではありますが、活気ある修学支援課スタッフの学生対応を頼もしく思いながら日々過ごしています。学務経験が少ない不慣れなものですが、大学教育基盤センターの組織や業務に早く慣れてお役に立てるよう頑張ります。

令和4年度からはDRI教育の学修成果の可視化のためのアセスメント検定や数理・データサイエンス・AI教育の充実の新たな業務も加わったところですから、大学教育基盤センター教員と修学支援課の教職協働で取り組みたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

修学支援課 課長補佐 澤 井 直 樹

令和4年4月1日付けで入試グループ（現：入試課）から修学支援課に異動してきた澤井直樹です。実は平成31年3月まで同じ席で勤務していましたので、3年ぶりの復帰となります。前回の勤務時と同様にネクストプログラムと知プラe事業、それに加えて数理・データサイエンス・AI教育事業等を担当します。

趣味は写真撮影で、大学教育基盤センターのホームページや修学支援課のポスターやチラシを始め、香川大学の広報等にも私が撮影した写真がチラホラと使用されています。カメラバッグを抱えて時々構内をうろうろしていますので、見かけたら撮影に協力してやってください。

定年まで残り1年となりますが、少しでも皆さんが楽しいキャンパスライフを送れるように手助けができればと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援課）までお願いします。